

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	臨床実習 1	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	通年
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	45時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	適宜レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	本澤・有山・小西・宮本・青木・後藤		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師	
学習目的					
柔道整復師として接骨院業務を行うに必要な知識や技能を身に付ける事を目的とする。1年次であるため、患者さんの誘導など接遇、また医療人としての守秘義務があることを中心に学ぶ。接骨院の開始準備や終了業務を覚え問診（予診）などの基礎を併せて学ぶ。卒業後の実務にて経験するであろう、事項を学生間で想定しあいその対応を考える。臨床の現場では想定外の事が多分に起こるので、初期からその対応を学ぶことは非常に重要である。物理療法器械の体験を通しその器具の特性を知るのも大切な経験であり、やがて物理療法器械などを患者さんに説明し理解してもらい脱着などの接骨院業務の基礎を学ぶことを目的とする。					
到達目標					
医療人として必要最低限な身のこなし、みなりなどを身に付け患者さんを不快にしない事を目標とする。その具体例として①身なりなどを含む接遇。患者さんの誘導。物理療法器械の脱着などが確実に安全に実施できるようにする。またその説明が出来ることを目標とする。接骨院内に起こったことを素早く把握し責任者に報告できる基礎をつくることも目標の一つである。一言に接遇と言っても接骨院業務は一般の接客とは意味合いが異なる。それらを理解するためには専門知識が必須であるのは言うまでも無い。また上記の様に守秘義務も特徴的と言える。それらを踏まえ1年時から医療人としての接遇を勘違いせず習得できることは非常に重要と言える。					
教育方法等					
授業概要	接骨院で働く意味を理解して、その業務の意味を知るための準備が中心となる。患者さんに接する前に必要な技能や知識を得るだけでなく、患者さんを不快にしないように接することを意識しながら、授業を進める。接骨院業務の中での行動を通じて、学生の接骨院に必要な知識や技能を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「柔道整復師としてのキャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築できるようになることを目指す。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視するだけでなく患者さんとの接し方の貴をも学ぶ。医療事故防止の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。連絡のない遅刻や欠席は認めない。守秘義務はあるが、必要に応じた症例検討を積極的に行うのが原則である。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は単位認定することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	課題等を総合的に評価する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	実技内容について評価する		
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	柔道整復師の業務①		接骨院業務の説明		
2回	柔道整復師の業務②		接骨院業務の理解		
3回	柔道整復師の業務③		接骨院業務の具体例を学ぶ		
4回	接骨院の業務前準備①		接骨院事前準備実務を行いそつなくこなせる		
5回	接骨院の業務前準備②		接骨院事前準備の具体的な業務を理解する		
6回	物理療法器械の説明①		物理療法器械の名称を覚えてその実感を理解する		
7回	物理療法器械の説明②		物理療法器械の効能を理解し説明できるようになる		
8回	物理療法器械の説明③		実際に使用し説明できるようになる。		
9回	予診の取り方①		患者さんの話を聞けるようになる		
10回	予診の取り方②		身体所見をある程度聞き出せるようになる		
11回	物理療法体験①		学生同士で脱着し説明する		
12回	物理療法体験②		学生同士で脱着し効果を体験しその感想を元に具体的な説明が出来る様になる。		
13回	物理療法体験③		実際の患者さんの補助に入り有資格者の元説明が出来る様になる。		
14回	運動療法体験①		運動療法の理論を理解する		
15回	運動療法体験②		運動療法を学生同士で体験する。それを元に患者さんに効能を説明できるようになる。		

授業計画（１６回～２３回）		
回	授業内容	各回の到達目標
１６回	接骨院業務の実際①	事故なく接骨院業務を行えるようになる
１７回	接骨院業務の実際②	事故なく接骨院業務を行えるようになる
１８回	接骨院業務の実際③	事故なく接骨院業務を行えるようになる
１９回	運動療法の実際①	有資格者の元患者さんに運動療法の必要性が話せる
２０回	運動療法の実際②	有資格者の元患者さんに運動療法の具体例をデモンストレーションできる。
２１回	接骨院終了業務①	接骨院の終了業務が出来るようになる（清掃など）
２２回	接骨院終了業務②	接骨院の終了業務が出来るようになる（その他）
２３回	まとめ	まとめ
２４回		
２５回		
２６回		
２７回		
２８回		
２９回		
３０回		